

参考資料2 教育委員会の記録

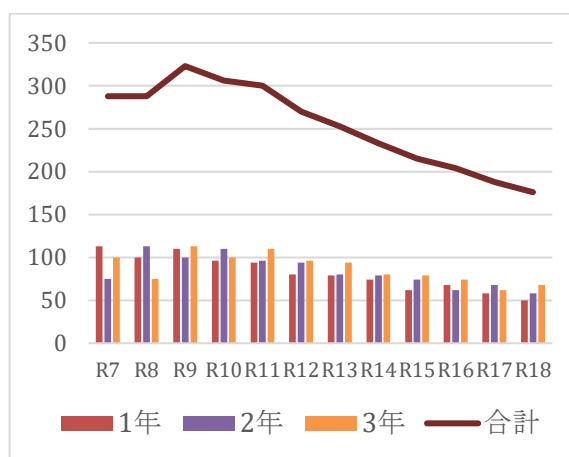
1. 浮羽町域小・中学校の現状

(1) 小・中学校の児童生徒数の推移

左のグラフは小学校の児童の推移で、山春小学校、大石小学校、御幸小学校の3校の合計人数になる。令和7年度559人に対し、令和12年度は391人と、現在の約70%にまで減少する見込みである。

次に、右側が浮羽中学校の生徒の推移で、令和7年度288人に対し、令和18年度は176人と、現在の約60%にまで減少する見込みとなっている。

浮羽町域小学校（令和7年度～令和12年度） 浮羽中学校（令和7年度～令和18年度）



(2) 学校施設の現状

浮羽町域の小中学校の施設は、御幸小学校の大規模改造工事以外はどの施設も老朽化が進んでおり、特に、浮羽中学校は雨漏りやひび割れがひどく、建て替えは近年中に必ず行われなければならない状況で、今後の維持管理、財政的負担は大きな課題となっている。

浮羽中学校



山春小学校



大石小学校



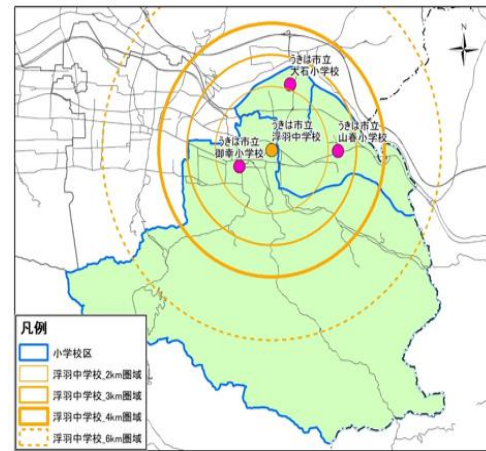
御幸小学校



2. 学校施設の検討

(1) 通学距離

通学距離の国の基準は、小学校4 km以内、中学校6 km以内が目安である。右の図は3つの小学校及び中学校の位置を示し、円は中心付近の浮羽中学校を軸と想定した通学圏域のカバー圏域図で、新設する学校の位置としては浮羽中学校が中心付近となるため、学校の位置として適切である。



(通学圏域のカバー圏域図)

(2) 敷地面積

同規模の施設一体型の学校施設と比較して、敷地面積は適切である。

●浮羽中学校

- ・敷地面積 43,277 m²
- ・令和12年度児童生徒数見込 644人

◎香春町立香春思永館（4小2中）

- ・敷地面積 37,765 m²
- ・児童生徒数 738人（開校時）

◎嘉麻市立稲築東義務教育学校（1小1中）

- ・敷地面積 30,785 m²
- ・児童生徒数 470人（開校時）

◎飯塚市立小中一貫校飯塚鎮西校（2小1中）

- ・敷地面積 39,032 m²
- ・児童生徒数 884人（開校時）



(浮羽中学校 航空写真)

(3) 施設コスト

初期コストは、施設一体型の新校舎建設の方が施設規模が大きくなるため高くなる。しかし、40年間の維持管理、運営コストは、現行どおりの方が4つの学校を維持するため高くなる。長期的なコストでみると、施設一体型の施設を新築した方が安価に抑えられる。

次に、補助金については、施設の再編、義務教育学校への移行となると、国からの補助金が活用できるが、老朽化による建て替えや維持管理に関する補助金はなく、全て市の財政負担となる。以上のように、コスト面、財政面において、施設一体型の施設を新築した方が適切である。

	浮羽中学校敷地内に新築 (施設一体型)	現行どおり (浮羽中学校のみ建替)
初期コスト	100%	77%
維持管理、運営コスト (40年)	100%	228%
国の補助金	有り (1/2)	無し (0)

3. 学校運営の検討

教育委員会では、これからの教育にとって、義務教育9年間の連続した一貫教育が大変重要であると考えており、児童生徒が一つの学校で学び、一つの教職員集団が指導していく義務教育学校が適切である。

義務教育学校

① 2016年(平成28年)に制度化された新しい学校制度。

9年間の義務教育を1つの学校組織として一貫的に実施する学校。

② 校長先生は1名、教職員は1～9年生までの学習を指導する。

小学校相当(1～6年)を「前期6年」、中学校相当(1～3年)を「後期3年」に区分。

9年間の教育課程において「5-4」や「4-3-2」などの柔軟な学年の区切りを設定することが容易になる。

③ 教職員の組織は、小・中の区別がなく1つの教職員集団とする。

子ども達の情報を共有し、系統的・連続的に指導することができる。

④ 一貫教育の軸となる新教科等の創設、学校段階の指導内容の入替え等、教育課程上の特例を設置者の判断で実施することが認められる。